

テ	マ	みんなで考えるまちづくりフォーラム～“自立をめざすまちづくり”に向けて～
日	時	平成19年11月11日（日） 13：30～16：00
場	所	美里町駅東地域交流センター 多目的ホール
主	催	美里町
出	演	者 コーディネーター
		足立 千佳子 氏 【特定非営利法人まちづくり政策フォーラム 理事】
		パネリスト
		勝 又 順 子 氏 【美里町まちづくり会議 代表】
		笠 松 清 氏 【中二郷2行政区 区長】
		畑 中 得 實 氏 【キョーユー(株) 代表取締役社長】
		鈴 木 孝 男 氏 【宮城大学 助教】
		佐々木 功 悦 【美里町長】

○町長挨拶

町 長～ 皆さんこんにちは。今日はあいにくの悪天候にも関わらず、このように大勢の皆様为本日のフォーラムにご参集をいただきまして誠にありがとうございます。また皆様方におかれましては、日頃より美里町行財政の運営につきましては何かと常々御支援とご協力をいただいていることに対し、心から厚く御礼を申し上げます。

さて、お蔭様で昨年1月に美里町が誕生いたしましたから早いもので2年近くになろうとしています。これまでのまちづくりに対しましては本当に皆様方の多大なるご協力の賜物でありまして、お蔭様で順調に計画通り進めさせていただいているところであります。本当に皆様のご支援の賜物であると感謝申し上げる次第であります。この2年間の間にまちづくりを進める中で、最も大切なものは、なんと言っても皆様のご協力をいただいて策定をいたしました美里町の将来計画であります総合計画でした。今日ご出席いただいておりますまちづくり会議の皆さんのまちづくりに対するいろんなご提言をいただきながら、そしてまた委員会の皆様のご支援をいただきながら、今年3月に纏め上げることができまして、議会の議決をいただくことができました。

町といたしましては、総合計画に基づくまちづくりを、当面の目標を27年までとして目標を立てて作成した計画であります。その目標に向けて現在進めさせていただいているところであります。

今日は、計画を進めていくためにも行政のみで進めるということではなくて、これから町民の多くの皆様方のご協力をなくして、これは進めていくことができない、またいいまちづくりをすることもできないと思っております。そのような意味では、まさに行政と町民の皆様との二人三脚で進めていくという姿勢こそ必要ではないかと思っております。本日は自立を目指すまちづくりとはどういうことなのか、また住民と行政の協働とはどのようなことなのか、この後のトークセッションで十分に意見交換などをいただき、今後町民の皆さんとまちづくりを進めていく大きな視座にしていきたいと考えているところであります。

そのような観点から、このフォーラムが町にとりましても、また住民の皆様にとりましても実りの多いものとなりますよう皆様のご協力をいただきたいと思います。

皆様方からいただいたご意見やご要望などをしっかりと受け止めさせていただいて、この新しい美里町の更なる発展のために尽力して参りたいと考えておりますので、よろしくお願いを申し上げまして、甚だ簡単でありますけれども、開会にあたってのご挨拶に代え

させていただきます。ありがとうございました。

司 会～ ここで皆様にお配りさせていただきましたプログラムを多少変更させていただきます。トークセッションの前に美里町まちづくり会議の勝又順子さんより、美里町総合計画策定に関するまちづくり会議の活動の成果につきましてプロジェクターを使いながら、報告をいただきます。総合計画策定にあたりましてまちづくり会議では、延べ40回の話し合いが持たれ、美里町総合計画への提言が町長に提出されました。まちづくり会議の提言の内容やそこに集約されるまでのご苦労など、お話いただきます。それでは勝又さんよろしくをお願いします。

○まちづくり会議活動報告

勝 又～ 皆さんこんにちは。勝又順子と申します。今日は美里町まちづくり会議の代表ということで参加させていただきました。私は美里町で生まれ育った人間ではなくて、4年半ほど前にこちらに住み着きました。生まれもこちらではないんです。今は登米市になっておりますが、迫町で中学校まで過ごし、その後学校の関係とか仕事の関係でいろいろと日本中のいろんな町に住みました。そして4年半ほど前にこちらに両親と姉夫婦が住んでおりましたので、一応私の実家ということになっているんですが、そちらに一緒に住むことになりました。それでこの町に来て住人になって、ここで腰を落ち着けて生きて行こうと思ったんですが、いろいろと分からないこともありますし、人脈もありません。友達もいませんでした。ここで生きていくためには、この町のことを知りたいと。まず知りたかったんですね。それで、ちょうどいいチャンスがありまして、去年の春にまちづくり会議が開かれるということでしたので、町から提言をしてくださいということでしたので、それじゃあ勉強も兼ねて、発言すれば何か受け入れてもらえるのかなということで、参加させていただきました。

昨年はまちづくり会議の目的というものは、美里町総合計画への提言ということでした。これは美里町が合併によりまして誕生してから、新たな10年計画を作る必要があるわけです。その計画に基づいて町が様々な事業を行っていくわけなんですけど、本当の基本になる計画なので大変重要である。それに住民の人たちの自由な意見を取り入れたいという、その様な発想で、町の方からの公募があったわけです。それでそれに対して自ら手を上げて集まった人たちが24名でした。その中に私もおりまして、今年の1月まで、まったくの素人ですから、何を話し合ishょうかというところから始まったんです。テーマから決めなくてはいけない。で、そこから何が問題点なのかということを出したり、分からないことが多いので、専門の町の担当の方に来ていただいて、教えていただいたり、ということを繰り返し繰り返しして、何とか不完全ではありますがけれども、今年の1月に提言という形で町長さんにお渡しすることができました。

うれしかったことは、それらのほとんどが総合計画に載せていただいた、いい形で反映していただいたということです。発言すれば、ちゃんと受け止めてもらえるということを実感した1年でした。それで、そこから今年へとつながっていくわけですが、その活動の内容をスライドを使いながら概略をご説明して参りたいと思います。

これは、公募で集まった町民により構成されたまちづくり会議がスタートしたということですね。

総合計画というのは27年度までの基本の計画であるということです。そして総合計画には基本構想と基本計画という内容があり、さらにそれをベースにして実施計画というのが作られております。それが年度ごとに作られております。その実施計画に基づいて計画が実施されているわけではありますが、まず総合計画に対して提言をしていきました。その

提言内容をご紹介します。

私たち24名のメンバーがみんなで議論してもまとまりませんので、テーマごとに3つの班に分かれて討議を行いました。このテーマというのは5つの柱がありまして、第1章から第5章まで分かれております。これは、美里町が誕生したときのまちづくり計画、建設計画の新町の5つの施策、それがこの5つの柱なんです。第1章が教育・文化、第2章が保健・医療・福祉、第3章が産業・雇用、第4章が生活基盤・環境分野、第5章が住民活動・行財政分野というように分かれております。

1班が第1章と第2章を担当、2班が第3章と第4章を担当し、第5章が3班を担当するというので、テーマ別に課題を抽出し、さまざまなことを勉強し、様々なことを考え、そして提言へと持っていったんです。

活動経過については、延べ40回の会議を持ちました。皆さんは仕事を持ちながらやっているわけでありますので、夜とか休日に集まるわけですね。時間的な制限はあるんですが。大変皆さん熱心に集まってくださって、通常の会議は月に2回ですが、それ以外にも自主的に勉強会やワーキングをやったり、担当の方に来ていただいて学習会をやったりということも続けていきました。そして平成19年1月28日に提言書を提出いたしました。

第1班の提言の主な内容をご紹介します。第1班は教育・保健・医療・福祉の分野です。そして、先ず福祉に関していうと大きく分けて高齢者福祉、障害者の福祉、そして子育て支援この3つに大きく分けて考えられると思います。

まず、高齢者福祉に関して考えました。高齢者福祉については、元気なお年寄りのためにまず何ができるか。85パーセントから90パーセントの元気なお年寄りのためには何ができるか。いつまでも元気で、できればお仕事をさせていただいて、収入を得て、なおかつ地域のために活動をしていただきたい。そのための支援を行いたいという内容の提言と考えていただければよろしいかと思います。

そして、次に元気のない老人のために何ができるか。まず考えられることは介護予防、そして施設に頼るだけでなく、また介護保険に頼るだけでなく、できるだけ地域や家庭の介護力を上げよう、これを私自身が高めていかなければならないと考え、提言の中に盛り込みました。さらに大切なのは、今の高齢者に関する問題も大切ですが、これから高齢者になろうとしている方々に関する問題です。子供を含めて、町民の皆さんが元気で人生を全うすることができることが大切であると考えました。ですから、病気予防であり、食育ということも大切ですし、そのことは後から出てきますが、健康に食べる、運動習慣を身につけるといことが大切だと思います。

次に障害者福祉に関しては、昨年の大きなトピックスとして自立支援法実施ということがありました。今まで受けていたサービスの一割を利用者が負担するという法律が実施されました。それによって今まで使っていたサービスが、受けられなくなつという人が続出して大変困った人が出てきました。

それで仙台市や大崎市がいち早く取り組んだんですが、負担増が区分の50パーセント分を自治体が負担するということになり、私どもも美里町に住んでいる障害者の方々に補てんした場合にどれぐらいの金額がかかるんだろうかということを、私たちも独自に調べたりして、中間報告のときに町長さんに提言しまして、50パーセントの補てんをお願いします、これは、幸いにも町がすぐに取り組んでくださって、宮城県内の町では初めてであるということでしたが、実際に50パーセントを補てんすることが決まり、1月から実施されております。

大崎市も最初が50パーセントで、だんだん下がっていくと聞いておりますが、美里町

は今でも50パーセントになっていると思います。非常に優れたやり方だと思っておりますので、私たちも提言しがいいがかったと思っております。

次に子育て支援です。子育てには町としてもたくさんのお金がかかります。ただ税金を使うだけでなく、もっと民間の力も活用していこうということで、保育ママや保育サポーターなど、個人レベルで子育てに参加しましょうというやり方です。それからファミリーサポートセンターを立ち上げてくださいということも提言しました。本来市町村が取り組むことですが、利用者とサービスを提供する方々、両方をコーディネートするという機関です。保育に興味があって子育てを終わった方々が、少しの料金をいただいて、現在子育てをしている方々を支援するという、コーディネートをする機関なんです。次の実施計画あたりで盛り込んでもらえると思います。これからも要望して参りたいと思います。

次に学校教育です。何よりも安全確保です。そのために街灯の問題ですとか、放課後の児童センターとかスクールバスの運行。スクールバスについては既に実施されているかと思っています。それから、部活動の問題があります。子供が少なくなったためにいろんなスポーツに触れ合うことができなくなったということが問題なんです。学校間で調整していただいて、子供たちになるべく、いろいろなスポーツに触れ合えるように、そのことをお願いしました。実際に学校間の連絡が良くなっているそうです。都合を付けて、中学校でいえばこっちの中学校で足らなければ、あっちの中学校と一緒にするということになっているようです。

食育については、非常に大きな問題でして、病気予防、医療費削減。医療費削減については、結果的に財政の健全化につながっていくわけありまして、食べるということは、学校給食や地産地消という産業とも関わってまいります。そういったことで、食育について真剣に取り組んでいく必要があるということです。

それから学校ボランティアにぜひとも取り組んでいただきたいということです。これから団塊の世代の方がどんどんリタイアしていきまして、若干の時間のある中で、子育てに興味のある方々が地域の子育てに積極的に入り込んでいただいて、子供たちを地域の子供たちとして育てていこう、こういったことがとても大切なことだと思います。その場合においてもやはりコーディネーターが必要になってくるともいます。

引き続き学校教育の問題ですが、まちづくり会議としては、学校評価システムを早急に構築していただきたい、内部評価と外部評価、そしてそれを公表するという三つの柱からなっていて、文部科学省からのガイドラインがあります。それを実施するのは町の判断になるわけですが、地域の意見をどんどん取り入れて、学校を学校の先生と保護者だけのものではなく、地域に開かれた良い教育施設にしていきたい、そのことをこれからもお願いしていきたいと考えております。

次に生涯教育の問題になります。生涯学習は多様な学習を町民の皆さんが享受できるようにということを基本に考えております。例えば生涯学習指導者の人材バンク、これは今でも登録していただいている方もいるんですが、なかなか実際の活動に結びつかないというのが現状のようですので、ぜひ活性化していただきたい。美里町はいろんな教育資源を持った方々やいろんな技術・知識を持った方々がたくさんいらっしゃいますので、その様な方々を是非活用して、それをみんなで分かち合ってこれから何かいいものを作っていこうと、そういう風になったら素晴らしいと思います。ただ単に学んで終わりということではなくて、何かここから生まれてくるのではないかと、そういうことも考えております。

医療に関しては正直言って時間不足だったんです。これは大変大きくて、難しい問題がありまして、南郷病院にも見学に行ったりしたんですけども、医師不足の問題に関して

は、私たちのレベルではどうしようもない大きな問題なんですね。それで南郷病院の利用促進・充実化ということをご載せさせていただきましたが、正直言って中途半端だったかと思っています。

私たちのレベルでできることとして、病気予防ですね。病気予防というものをいろんな角度から取り組む。そういうプロジェクトを立ち上げたらどうですかということを提言したいと今みんなで相談しているところでございます。

これは全般に言えることですが、社会貢献制度をぜひとも立ち上げていただきたいということです。今、町には表彰制度はあるんですけれども、もっとボランティアでがんばった人たちとか、小さなことをした人をどんどん褒めて欲しいという考え方です。総合計画に載せていただいたので、早く実施していただきたいと思います。町のためにいいことをしてもらったら、“ありがとう”の気持ちを表すのは大切なことであると思うんですね。ありがとうをいっぱいいうべきであると思うんですね。こまめに。それを町民の代表である町長さんからありがとうを言っていただきたい。そういう考え方なんです。

そして1班は最終的にいろんな課題を落としどころというか、こんな形にしたらうまくいくのではないかとということで、仮の名前ですが「暮らしサポートセンター」の構想を提言させていただきました。

住民、行政、暮らしサポートセンターがある、この三者が上手に結びついている。そして暮らしサポートセンターは、住民と行政の間にあって橋渡し役になる。あるいは住民と住民の架け橋になる。そういったようなことを考えています。取り扱う分野は福祉とか教育関連、生涯学習といったことを書いてありますが、もっともっと他にもできることがあると思います。ただ一気に全部でなくても、一つでもスタートできればいいと思っています。実際、総合福祉推進機構といった形で、社会福祉協議会さんが中心となって検討段階にあると思っています。私たちが提言した暮らしサポートセンターがかなり近いところにあると思いますので、注目していきたいと思っています。

2班です。2班は、産業・雇用・生活基盤・環境分野です。まず農業の振興ですね。地産地消の振興、北浦梨の振興など、このようなことを提言いたしました。

次に商工サービス業の振興です。美里ブランドを確立しようということを提言いたしました。町内の企業で生産したものにマークを付けようとか、美里町の町花バラを利用した新たな商品開発とか、遊休地や空き店舗の活用を提案させていただきました。

次に観光物産の振興です。自然を利用したグリーンツーリズムの推進です。土田畑村を中心としたエコツーリズム支援会議を立ち上げるとか、山の神神社を中心とした妊婦さんいらっしやいツアーとか、会議の中の若い学生さんが提案してくださいましたが、神社さんとの兼ね合いもありますので、まだ進んではないのですが。

地域基盤の有効利用ということです。これは道路を整備して、文化会館や各地区公民館を整備して使いましようとか、南郷の温水プールの有効活用をするとか。地域エネルギーの活用においては、例えばソーラーハウスとか、廃油とか、堆肥とか地域のエネルギーを活用しようということを提言しました。

生活安全の確立については、消防、救急、防災体制の確立や交通安全防犯体制の強化について提言しました。

次に環境・景観の保全、創出については特に、彫堂山の総合公園化の推進とか、一斉清掃をやましよう、河川敷を利用しましようとか、川をもっときれいにしましようとか、華ロードに日本一小さな道の駅を作ろう、美里町をみんなで美しくする条例を制定しましようということなどを提言しました。

その他居住環境の整備について、小牛田駅周辺の整備というのがあります。

次に、2班の検討課題をまとめました結果、産業の育成と雇用の創出については、新たな価値の創造により美里ブランドを確立し、活力あるまちづくりを実現する。そして、「話・和・輪」のある地域づくり～行政だけではなく住民一人ひとりが地域を支える～ということで、安心・安全・うるおいがあるともにあるまちを目指し、暮らしやすいまちづくりを実現する。そして次世代につながる、皆が誇れるまち「美里町」の確立というものです。

そして2班は、美里町ブランド戦略構想というものを提言しました。美里町ブランドを基礎として、いろいろな流れができていく、技術支援、認定委員会、広報や販売戦略、ブランドの基準づくりなどを行いながら確立していく、など詳しいことは資料をご覧ください。

次は第3班です。第3班は、自立を目指すまちづくりです。住民活動の推進ということで、町民参画のまちづくり、例えば町長、行政と町民との町政懇談会、それから町議会議員との懇談会をやりましょう。それから町民ガイドブックを作りましょう。町民参加による行政評価システムの導入。

地域活動の活性化。地域毎の活動を強化しましょう。地域コミュニティセンターを活用し、情報誌に行政区の活動を紹介しましょうとか。そして交流を推進しましょう。地域交流等の充実。これは、行事はできるだけ住民主体で行いましょう。経費をかけない工夫が必要だし、それから、地域間交流もやりましょう。それから美里町のイベントも企画する。中学生平和体験の旅ということです。国際交流ですね。アジア諸国との友好関係の強化、中国吉林省の中学校との交流。

男女共同参画社会の実現については、女性の参画機会の向上です。女性団体にアンケート調査を行いましょうとか、もっと女性が参画できる環境整備を行いましょうなどがあります。

行財政の健全化。町民と行政が一方通行ではない座談会懇談会を開催すること。行政組織・事務事業の見直しが必要であることなど。

次に、財政運営の健全化です。項目が多いので、資料をご覧ください。

次に、広域行政の推進ということで、周辺の市町との一体的な圏域づくりの推進などを提言しました。

このようにして私たちは提言しましたが、昨年のまちづくり会議から考える今後の検討テーマですね。暮らしサポートセンターの設立、各種プロジェクトの立ち上げ、各プロジェクトを横断的に捉える意味で、美里町を元気にするプロジェクト、安心安全プロジェクト、町民参加プロジェクトなどです。

次に、19年度のまちづくり会議ですが、総合計画に対する所期の目的を達成しましたので、町からもこれからも続けてくださいというご要望もありまして、メンバーも今後も見守っていかなければならないということになりまして、第二次まちづくり会議が4月にスタートいたしました。

そして今年は総合計画に基づく実施計画がどうなっているのか検証していく作業をして、ただ、400以上もある内容でかなり膨大なので、素人である私たちには内容が分からない部分も多くあるので、気になるところをピックアップしまして、各担当部署の職員の方にご足労いただいて、説明をいただきながら学習会を行って、内容の把握をしてまいりました。そしてその内容に基づく提言を11月末に行う予定です。

そのほかに、自主学習としてコミュニティの自立と経営、パートナーシップ協定につい

て先進地域の実例を学習していきました。また研修会に出席したり、広報を出したりもしました。まちづくり会議だより第1号です。今後も会議の運営状況などを町民の皆さんにお知らせして参りたいと考えております。

分らないながらも、遅々とした歩であっても、協働・パートナーシップということを目指して、前に進んでいけば住みよいまちづくりに貢献できると信じております。この会の目的は、たった一つ、住みよいまちづくりです。私たちはこのことのためにだけ働いていきたいと考えております。どうか一人でも多くの皆様にまちづくり会議に参加していただきたいと思います。

〇トークセッション

足立～ 私はトークセッションの司会進行をさせていただきます、まちづくり政策フォーラムの足立千佳子と申します。皆様と一緒に、より良い美里町のあり方ということについて、共に語り合いたいと思っております。

早速ですが、総合計画の内容について、あるいは今後のまちづくりのことについて佐々木町長よりお話をいただきたいと思います。

町長～ 私のほうからは、先ほど勝又さんからおおよそそのお話がありましたので、私のほうからは、流れ的なことをお話しいたします。

まちづくり会議は、美里町の総合計画の策定に際しまして、町民の皆さんから提言をいただきたいということで、委員を募集させていただきました。24名の委員の皆さんにご参加をいただきまして、昨年5月28日に発足をいたしました。平成18年度のまちづくり会議の活動につきましては、発足してから今年1月28日の提言に至るまで、全体会議を17回、3つの分科会において検討会と独自の勉強会と議論を行っていただきました。

提言に向けては、町側も管理職をはじめとして職員の参加をさせていただき、適切な町の情報提供をしながら、会議の皆さんと意見交換をさせていただきました。町の職員と会議の皆さんが提言の下地を作っていたと思います。

そのような町民の皆さんが政策の形成に関わっていったということは、合併までの旧小牛田町、旧南郷町においては行ってこなかったことではないかと思えます。

町民の目線で様々な意見が出されました。暮らしサポートセンター構想、美里町ブランド構想、山の神社を中心とした安産ツアーというユニークな発想の意見もございました。また町民参加ガイドブックを作成してみてもどうかというような数多くのアイデアや提言が盛り込まれております。どれを見ましても町民の方々のご意見というものは、実に多彩で、まちづくりにとって有益な発想があるものなど大変関心をいたしました次第です。その内容を町といたしましては、総合計画の中にしっかりと反映させていただきました。まちづくり会議による提言の内容は、皆さんにお配りいたしました総合計画の概要版においてもその内容が活かされているところであります。まちづくり会議は、提言を終えた後も美里町のまちづくりに関わりたいと、そして更なる展開を期しておりますことは、まさに今後の住民参画と協働による新たなまちづくりを先導する取り組みとして、期待されるところであり、誠にありがたいなと感じておるところであります。

次に美里町総合計画の基本理念は、一人ひとりが輝き、ともに生きるまちづくり まちが人を支え、ひとがまちを支える、であります。これまで多くの住民が培ってきた経験と知恵、力を出し合って、まちづくりに参加し、住民と行政が対等なパートナーシップのもとに、協働するまちづくりを基本理念としております。この基本理念から、夢と将来にわたって安心できる心豊かな暮らしを実現できるということが基本理念となっております。

将来像としてどのようなまちづくりを描いているのかということになりますが、人つどい、ともに築く幸せと豊かさを実感できるまち、美里町。これは建設計画に盛り込まれた文言であります、これを将来像として、5つの基本的な政策ですが、要になるものであります。特に重視したいと思っているのは、今回のフォーラムのテーマでもある自立を目指すまちづくりであります。住民と行政のパートナーシップから、互いに智恵を出し合い、それぞれの立場で役割を担い、自立を目指すまちづくりを目指すということでもあります。

この自立を目指すまちづくりについては、ここにも載っておりますけれども、住民活動の促進、交流の促進、平和行政の推進、男女共同参画社会の推進、行財政の健全化という具体的な施策の柱を設定いたしまして、自立を目指すまちづくりを推進することとしております。このような経緯経過のもとに総合計画が策定されてということでもありますので、よろしくお願い申し上げます。以上です。

足立～ 各登壇者の方々の自己紹介をお願いします。

畑中～ 昭和51年に小牛田に来まして現在まで続いております。平成16年には旧小牛田町様より指定企業第1号として指定されております。今回フォーラムの開催にあたり総合計画を読ませていただきましたが、人つどい、共に築く幸せと豊かさを実感できるまちがブランドおりに実行されれば、豊かな、安全安心なまちづくりが可能ではないかと思いました。

私どもの会社の経営スローガンは、ともに学び、ともに築き、ともに進もう、そして幸せになろうの合言葉で、日々生産活動を展開しております。なかなかスローガンどおりに行かないことが多々あります。ですから、これから進めていくうえで優先順位を決めて、取り組み、一つ一つ成果を上げていくことが大事なのではないかと思います。

商工サービス業の振興のほうを見ますと、もう少し具体的な施策を盛り込んで欲しかったなと思いました。また町が豊かになるには、実感できるための施策に必要な収入を確保していかなくてはならないのではないかと思います。是非、商工会とその他の機関と連携しながら、町内企業の育成支援、企業誘致に取り組んで欲しいと思います。私ども町民も役所と協働しながら、温かく、厳しい目で役所の行動を確認することも大事ではないかと思います。

最後に、せっかく立派なプランを作ったわけですから、やり遂げる勇気を持って、是非計画通りに実行して成果の見える、結果を出してもらいたいと思っております。私も町民の一人としてできることを協力して参りたいと思います。

足立～ それでは勝又さんお願いします。

勝又～ NPO法人の代表をしております。フットセラピーというか、足つぼマッサージ、これは健康法なんです、その健康法を、普及する活動を行っております。11月25日に小牛田駅前商店街の一角に古いお店を改造して開店する予定であります。健康に役立てていただきたいということからお店を開店したいと感上げております。そして、地元の方々の働く場所として、皆さんの健康づくりに役立てていただきたい、そんなことについても後ほどお話ししたいと思います。

足立～ 次に笠松さんお願いします。

笠松～ 美里町には64の行政区があります。私は、南郷地域の南部に位置する中二郷2行政区で世帯数が80戸くらいの中規模の区であります。そこで皆さんのお世話をしているところであります。区の仕事と少しばかり農業もやっております、実行組合の役もお引き受けし、両方お世話しながら、地域の皆さんと輪を取りあう努力をしているところでございます。区の中には、農業に携わらない方、農業をやっている方が混在していますが、その様な中で皆さんと手を携えて行くためにはどうしたらいいかなと、常に思っているところでございます。地域の皆さんと和を持ってするには、まず会話が必要で、いろんな行事をするのには、協力体制をいた

だかなければならないと思います。それらのことに努力しているところでございます。

総合計画に対する感想でございますが、提言を拝見して一言で申し上げますと、細部にわたって、また時間をかけて協議されたんだなと思いますし、つぶさに内容が記載されており、よく分かり、これから実行していかれることを期待しているところであります。町の総合計画審議会とまちづくり会議が、相互に情報交換され、協議を重ね、各班それぞれのテーマごとにまとめられております。行政中心から住民の考えを取り入れた住民参画の流れが十分に感じ取ることができたと感じているところです。

高齢者福祉では元気に仕事をし、収入を得ることで、生きがいを作り、健康づくりに努めているとか、シルバー人材センターの活性化と福祉公社の早期立ち上げで、就労の場を確保していくなど、諸々の面で配慮されて計画審議されたのかなと思っております。

また町民参画のまちづくりでは、町民と行政が協力して町民の意見交換の場、あるいは各種計画案の中に町民参画をよく見ることができます。これらは行政と町民の協働、住民の積極的な参加が欠かせないんだなと感じました。

足立～ 鈴木さんのほうから自己紹介を含めてお願いします。

鈴木～ 私は宮城大学事業構想学部に所属しております鈴木と申します。昨年、まちづくり会議の運営に関わった者として、感想を申し上げさせていただくと、行政の方々とかかなり本音で議論することができたと思っています。時には、非常に白熱した場面もありましたが、その中でも非常に有意義な話し合いができたという風に思っております。回数もさることながら、1回ごとの議論の密度も濃く、時間をかけて行いました。

まちづくり会議においては、計画への提言を行ったという成果もありますが、プロセスを共有することができたことも大きな成果であると思っております。かなり前向きで活動的な方が参加されて、行政の方々と計画づくりができたということで、行政と住民同士の関係を深めることができたかなというように感じております。非常に本音で語り合える関係ができたと思います。また住民同士のつながりも深まることができたという風に思っております。

これから企業との連携とか、まちづくり会議の方々は考えられているようですので、いろんな知識や技能を持った方々が連携して、また質の高い議論を行っていくということはこれから非常に重要でありますし、昨年の課題としては、外への発信が弱かったと思いますので、先ほど聞きますと9月に広報を出されたということですので、まちづくり会議に参加されていない方をこれからどのように巻き込んでいくのか、このような議論を町全体に広めていくのかということがまちづくり会議の活動を盛り上げていくうえでも、非常に重要なことであると思えますし、その過程の中ではいろいろ調べたり、考えたり、伝えたりという作業が、非常に場面場面で出てきますので、そのようなことを踏まえながら深めていけば、将来的にも自立を目指すまちづくりにより近い形で、これは長期的なスパンで見ると必要はあるんですが、大いに期待しているところであります。

足立～ 総合計画では、町長が一番核になるのが“自立を目指すまちづくり”ということでした。それでは、皆さんの立場で自立とは何か、自立に必要なものは何なのか、あるいは既におらほのほうではやっているよ、ということを実例を踏まえてお一人ずつお願いしたいと思います。畑中さんのほうからお願いします。

畑中～ 私が仕事を通じて学び感じたことを、産業人としての立場で少し話させていただきます。地域が豊かになる、町が自立していくためには、財源の確保が重要ではないかと思っております。また増やすことは大事なことでありますが、スリムな行政組織、そして節約、無駄なことを減らすことも必要であると思っております。町内企業が発展成長していくことが、地域雇用の拡大と税収増が期待できるのではないかと思います。また美里町には他町村にはないJ R線がございま

す。駅東地区の定住人口を増やすことも非常に大事ではないかと思います。

県では富県宮城を掲げていろんな取り組みを行っております。DC等がありますが、私ども工業関係では県との連携がますます必要であり、町内企業の活性化、企業誘致、情報収集等において県とのつながりを密接に持つことが大事ではないかと思います。3年前から県で取り組んでいる自動車産業では、セントラル自動車が大衡村に進出することが決まっております。経済効果や雇用確保など様々な効果が期待されているところです。産業界全般が大いに期待しているところではないかと思います。広域連携を深めながら、美里町でもどうか誘致そして駅東を中心とした地域への定住促進を企業にPRするべきではないかと考えます。またがんばる企業には、商工会も行政も大いに支援を行うべきではないかと思います。

地産地消型ビジネスも活発になってきたと聞きますが、町内企業経営者とコミュニティの顔の見える連携を行い、域内消費を推進し、活気あるまちづくりを展開して欲しいなと思います。

それから、美里町職員も専門職、いわゆるスペシャリストが少ないのではないかと感じているところでもあります。特に商工業を取り巻く環境は厳しくなっており、なかなか楽になるようなケースは少なくなりつつあると思いますが、商工支援を行う専門的な人材がもっといてもいいのではないかと思います。しかも、短期間に異動するようなことがありますので、長期的に専門的な人材を育てて農業も含めて産業支援を行って欲しいなと思います。

最後に、産業が成長して、そこに人が集まり、そこに地域や町が形成されていき、成長発展してきたと思います。ところがいろんなところで産業が衰退し、寂れていった地域もあるようです。そんな状況からすれば、美里町は良い環境が整っており、よそには無いインフラもあります。そのような点からすれば、成長していく町であると思いますので、この町で私どもの会社が地域に根ざし、成長することで、雇用の確保が実現され自立するまちづくりに貢献できればと思います。共に力を出し合い、努力して参りましょう。

足立～ 会場から思わずそうだという拍手が沸き起こりました。このことについて町のほうとして町長はどのように考えているかお伺いしたいと思います。

次に、勝又さんのほうからお願いします。

勝又～ まちづくり会議で感じたことなどをお話してまいりたいと思います。なぜ私がまちづくり会議に参加しようと思ったかという、よそ者の視点を持っているんです。メンバーにはよそから来た人が多いんです。それはなぜかという、思うに、よそから来た人のほうが町が見えるのではないかなと思うんです。ここで生まれ育った人は意外と気づいていないと思うんですが、私は20回ぐらい引越しをしているものですから、その都度こまめに市役所や区役所について、この区役所や市役所のやり方、サービス、手続きするときの感じ良さ悪さから全部見ているんです。結婚していましたので主婦の立場からも行政のやり方を見てきました。そのような視点で、他の人たちも意見を言おうと思っているんだと思うんです。

この間町長さんから5つの課題についてまちづくり会議で考えてくれということで出まして、大きなものは駅東に住民が住み着くにはどうしたらいいのかとか、企業誘致もありましたし、大きなことはここに人が住むことです。そのときに何が必要かという、よそ者に対して優しい町でないと思いません。役場に届けに行くときに、窓口の対応は極めて大きな印象になると思います。目黒区はすべての手続きをその場ですぐにやってくれるんです。すべてのことに通じているんです。東京23区は成熟していますね。

車で住もうと考えてきたときに標識が親切かということもありますし、町の人が親切に道を教えてくれるだとか、そんなことがあるかもしれません。素敵な温泉や施設が無くてもいいんです。ソフトの問題でいいと思います。ハードよりもシステムなんです。お医者さんがどこにあるかというマップがあるといいですね。特に子供がいる若いお母さんなどにとっては。要

はよそ者に優しい町になったらいいなと思うんです。

そして私はNPO法人を作ろうと思ったんです。フットセラピーをなぜここでやろうと思ったかという、ここは医療費すごいですよ。毎月2億6千万円の医療費がこの町ではかかっているんです。で、もしかしたら私の仕事が役に立つのではないかと考えたんです。それがきっかけなんです。

足もみですが、結構健康にいいんです。一割医療費を減らすのが可能なんです。月一万円ぐらい足をもんで医療費が減らせるんです。個人レベルで。全体で3万円の医療費がかかるから。肩こり・腰痛のうちに何とかする。病気にならないように。これが予防なんですね。

それから店の2階に皆さんのコミュニティの関係で使ってもらおうというスペースも作りました。自由に使っていただけるようにしてあげたい。暮らしサポートセンターの走りかもしれない。コミュニティビジネスなど、小さなスペースでできることがあるかもしれないです。もしそのような考えを持っている人がいれば私がお手伝いしたいです。

足立～ 暮らしサポート勝又版が始まっているようで、頼もしいですね。

笠松さんお願いします。

笠松～ 行政区にとって自立とは、主体性と経済性であると思います。それを私は確立したいと思っています。町の支援措置などはあるが、住民が参加しやすいように計画を建てなければなりません。住民が自ら必要性を実感し、地域に根ざしたものとしなければなりません。地域に根ざし、住民が地域の安全安心、地域のコミュニケーション、地域の支えあいにかかせないと認識した事業は、大なり小なり自分たちが協力し合っても、その事業を継続し、又はさらなる事業を計画にできることだなあとと思います。

具体的な事例ですが、町の合併により地域内環境の整備で地域の一斉清掃がこれまで、3回実施していたのですが、年1回の方向になったとき、地域の皆さんからそれで地域内の環境が保たれるのかなということがありました。私たちの地域なのだから、町が1回でも、きれいな環境を保持するためには、2回実施しようがんばっているところであります。

また地域防災組織の立ち上げについてです。平成15年7月26日の大震災を経験しました。災害の時には地域で支えあうことを実感したのであります。そのときには自主防災組織はなかったもので、災害があったときには一刻も早く手を携えていくのが大切だということで、自主防災組織を立ち上げたのであります。自主防災組織を立ち上げたのは、それがまずスタートであります。私どもの自主防災組織は、中二郷地区防災会議と命名しまして、対策本部を置いて本部長に区長があたり、副本部長に副区長があたります。独居高齢者対応の担当なども配置して、さらに80世帯を4つに分割しました。さらにそれに5世帯ずつのグループに分けました。このメリットは、いち早く隣同士が連携し合えるというものであります。グループを小さくしてそこにグループ長を置いて活動しています。地震速報で、震度5以上の報道がなされたときからこの活動をしようということにしております。住民に安否確認に積極的に協力していただいております。確認者が声をかけても声が返ってこないことも考えられます。親戚に行っているとか、家族の誰が帰っていないとか、諸々の項目を作って、事前に配布している用紙に、必要な箇所の記入して、玄関に貼ってくださいと申し合わせております。その用紙はいつでも分かる場所に保管してくださいとお伝え申し上げております。

地域では、毎年防災の日に安否確認をし、指定避難所に向かって安否の状況を各グループ、支部でそれを集計しまして、町で行っている本部に報告することで、毎年訓練をしております。計画は立てたものの実際行動していないと、災害があったときには活用できませんので、毎年訓練・安否確認の訓練をしながら、避難所で更なる講習もしながら、地域の安全に努力しているところであります。

次に、地域のコミュニケーションづくりでございますが、私どもに地域は、2つの行政区が連合して、盛大な祭りを計画しております。今年の8月にはおよそ400名の参加をいただきながら、祭りをしたのであります。この祭りの開催にあたりまして、地域の方々、地域の様々な組織の代表の方、地域の青年の方々、この青年の方々の協力は大変ありがたいです。率先して協力していただきますし、会議においてもいろんな意見をおっしゃってくださいますし、先頭になって行動していただく、いわゆる計画の段階、実施の段階と両面から協力をいただいて、盛大なお祭りができました。これも地区住民の総参加があってこそと思っております。

これらの目標を一つにして、会議も開きますし、中間報告、反省会と、同じ目的に向かって、行動し、反省もしております。そのことによって、来年につながった取り組みとなるようにしております。地域の輪が広がり、自立していくことが必要なんだなと思っております。

足立～ 先進事例を聞いたような気がしました。地区住民、特に青年の方々も総参加でやっておられることをお聞きしまして大変感動しました。

それでは鈴木さん、3人の美里町の自立についてのいろんな取り組みについて、他の地域での事例も踏まえながら、協働や自立についての取り組みについてお話いただきます。

鈴木～ 笠松さんの地域のようにコミュニティのまとまりがこんなに強いというのは無いのかなと思います。特に若い世代が活動に参加してこないということで、コミュニティの分断にもなるという大きなコミュニティの課題として各地で騒がれているところでもあります。

自立を目指すまちづくりとなると、地域の方々が、集まってまちづくり会議のような形で、いろいろ考え行動を起こしていくという活動も一つあるんですが。全国的な流れはコミュニティの活動自体をこれからどのように捉えていくのか、まちづくりの担い手あるいは行政施策を実行していく担い手として、コミュニティの力というものに、少し活かしながら、まちづくりに自治を行っていかうというような動きがかなりあります。

特に栗原市などは、コミュニティ組織一括交付金という制度もつくって、227の自治会で道路愛護、介護予防、健康づくり、植栽整備、子供健全育成などという項目で計画をつくってもらって、それに一括交付金を出そうというような事業を展開しています。大崎市でもコミュニティを母体とした形で、町の総合計画に変わるような計画をつくってもらって、いろいろな事業を起こしてもらおうとする形です。中二郷地区のようにいろんな方から幅広く意見を聞かれて、戦略的な事業計画を立てて、みんなが総出でその事業を支えあうというようなことがなかなか難しく、この前越前市を視察したときは、なかなか若い人や女性の参加が難しいとお話があります。

行政区の集まりであつたりすると、なかなか自治会の枠を超えた幅広い議論ができないということが言えます。越前市では10何区の学区があるわけですが、その学区で自治をテーマにして、どのようにしてその様なものを促進していったらいいか、検討し始めたんです。区長さん方の連合組織があります。自治振興三ヵ年計画というのがあって、その中でいろんな分科会に分かれてもらって、まちづくり会議のような形で進めるらしいんですが、話し合いをするということは、幅広く声を聞く、暮らしサポートセンターの話がありましたけれども、小さな声を聞いていくことが大切だろうと、その様な情報を手がかりに計画を作っていく、例えば先ほどの病院マップを作ったらいいいのではないかとということ、お母さんたちからの声を聞きながら、その様な地域の計画を作っていく上で、議論のテーブルに上げてくるかということが、実効性の上がる計画作りをしていく上では大事だろうと。その話し合いの場を作るときには、お父さんたちで集まっていたのは難しく、若い人やお母さんたち、時には子供たちも巻き込んで、話し合うというような場を作っていかなければならないだろうと。そこで、越前市ではどのようなことをやっているかということ、その様な話し合いの場を作るルールをちゃんと定めて

いるんですね。例えば男女の比率をそれぞれ40パーセント以下にならないようにするとか、半々になるように呼応制メンバーを構成しようということであったり。映画を見る機会を作ると、若い方やお母さんたちが寄ってくるというんですね。それをきっかけにして、若い人たち等ともつながりを持って、話し合いに参加してもらうことをしているそうです。その様な話し合いは公開にしますとかですね。ちゃんと会議録を作って、まちづくり会議だよりのような形で、情報を発信し続けることです。私は知らないよということがないように、その様な仕組みをつくっていることをしています。

優先課題を取り上げて取り組むということ、そういったことを続けていくことによって、全体的に1億の予算を付けているんですが、それを配分して、それも地域が使いやすい配分になっているんです。

例えば、全体の予算の5分の1は次年度に繰り越せるとか、ルールをちゃんと作っているんですね。それと市の各課で地域で話し合っていることでわからないことがあれば、専門的なサポートをしていくという体制を全課でとっていますし、ガイドブックのようなものをつくって、いろんな話し合いの場を作るにはどうしたらいいかということを目指針のようなものを用意しています。

そのようなことをしていくと、上山地区というところでは、いろんな活動をやるようになったんですね。いろいろと自分たちでアンテナを広げて活動をしていく中で、NPOとかとも連携する中で、幅広い活動ができるようになったりして、どんどん自分たちの質が高まるというか、いろんな活動ができる力を持つことができると、自分たちの活動がどれだけ社会に貢献しているとか、評価をし始めたんですね。そのような活動を実際に始めているんですね。その様な活動を支援していくことが非常に大事だと思います。

まちづくり会議に期待したのは、コミュニティがその様な話し合いをするということは無かったし、どこから始めたらいいいのか分からないと思うんです。それをサポートする、まちづくり会議でいろいろ勉強された方々が行政区での話し合いに参加してサポート役に回っていったらなということが個人的にはあります。

大山市の仙北地域というところがあるんですけども、そこで今年から地域協議会公募で選ばれた20人の地域で選ばれた組織があるんですね。そこに市から支所単位で五百万円の地域予算が配分されるんですけども、その使い道を考えていく。そして地域協議会でワークショップを開いていく。そのうえでは、地域の課題をそれぞれの委員が持ち寄ってくるんですね。そこで視の職員と色々な話し合いをするんです。その様な展開を美里町にも期待したいですね。

足立～ この駅東地区は定住人口を増やしたい地区であり、住みよい地域になったらいいなというお話が勝又さんからもありましたが、新しいコミュニティの中にも美里町らしさというものを入れていくのが、笠松さんのほうから大きなヒントをいただいたような気がしますが、昔ながらのコミュニティの中で地域の方たちが昔から培ってきた知恵とか地域全体として、やってきたいいろんなコミュニティの再生とか活性化というものを新しい駅東の中でどのように取り入れていくのかということがこれから課題となっていくのかなとお伺いして感じていました。

ただ、産業、NPO、地域自治で、もう充分に実践されているのかなという気がしました。それを町長はいかに町政に組み入れていくのか、あるいは駅東のまちづくりにどのように活かしていくのか、ということについて各出演者のコメントを聞いたことを踏まえながら美里町の行政にとって自立とはどのようなことなのか、お話をお伺いいたします。

町長～ 今3人の方々からお話をお伺いして、それぞれの立場でまちづくりの本質をよく突いているなど、今、町が進めていかなければならないことを皆さん方からいろいろとお話をいただいた

など感動しているところです。

畑中さんは企業人の立場から町の現状を見て、いろいろお話をいただきました。県は企業誘致を推進しながら県民の所得をいかにしてあげていくかということにいろいろと取り組んでいる。町としても、それに呼応して、大衡にはセントラル自動車がある、大和町には東京エレクトロンがある、その関連する企業が何十社となく出てくるということを知事から承っております。

そのような意味で、人口減をいかにして食い止めていくかということに重点を置くべきであろうと考え方から、今の現状を10年前から推測しながら駅東部の開発を進めてきたということでもあります。定住化を図るためには、町として企業誘致をしっかりと図っていかなければならない。ということで庁舎内に企業誘致を推進するためのプロジェクトチームを組んで、今県との連携を図りながら、またいろんな企業情報を収集しながら、できるだけ早く町に企業誘致を確保し、定住化を図るための施策を進めております。

また、この町には他の町にないものは、何だろうかということの交通の要衝である小牛田駅というものが美里町のメリットでありますから、そのメリットを活かしながらまちづくりを進めていこうという考え方でいくべきであろうと思います。なおさら、駅周辺の旧市街がだんだん停滞気味であることは否めないことです。郊外に人が流れておりますけれども、地球環境とか、いろんな問題が世界的に叫ばれるようになってきております。その様なことを考えるといずれ近いうちに、確実に駅を中心とするような旧市街地の戻ってくるだろうと確信しております。その様な意味で、それを受け入れるべき、しっかりと確保するべきではないかと思っております。

それから勝又さんからお話いただいて、全国各地でお住まいになっておられて、よそ者に対して優しいまちづくりというのはまったくそのとおりであります。その様な意味で窓口業務サービスの向上などは、強くやっているところですが、なかなかまだまだ他と比べるとということでのお話であるかなと思えました。その様な意味でもっと襟を正しながらよそから来ている方々にも町民と同じような等しく優しい行政事務をやっていかなければならないと思っております。

健康づくりを実行している立場でも、前向きにまちづくりの中に組み込んで生きたいと思っております。

笠松さんからは、地域の本当に生の声を感じているところでもあります。そこで鈴木先生からもお話いただきましたけれども、地域支援をしっかりとやっていこうということで、予算を取って64の行政区で実施しているところです。ただそれは財政の面だけを支援しようということだけで、お話を聞いていて感じたのは、行政全体として協働のまちづくりに取り組む姿勢や覚悟を住民の皆さんにしっかりと示していくことが重要ではないかと思えました。そこで、64の行政区で地域づくり支援事業をただ行政区ごとに、計画や発想を尊重することは当然でありますけれども、後方支援という形での町職員による地域づくり協働隊を結成して支援を進めていかなければならないかなと思っております。全職員で結成して、地域に居住する職員が地域を担当して、いろんな計画づくりに町が持っている情報を提供したり、計画をつくって補助申請するときに、手続き業務をそこに居住する職員が手助けをする、あるいは、月に数回区長さん方に回覧や文書を渡しながら、地域の情報を取り入れることも必要と考えています。その様な形で地域づくり支援事業に取り組んでいく、自立と協働によるまちづくりを考えております。

足立～ 実際やられている方々のお話は本当に力強いなど。そのことに町長もますます「よしやろう」というような非常に前向きなお言葉をいただいたようで、私もうれしく思っております。

ここでせっかくですので、会場の皆さんにも自分のところでも自立に向けてこんなことをや

っているよとか、こういうようなことをもっとやってみたらどうかということ、ご意見や感想を承りたいと思います。あくまでもご意見や感想ということで、町長に物申すということではなく、いただきたいと思います。

町民～ 峯山の区長です。笠松さんのお話の防災関係の件は、地域性からいってかなりすんなり行っただんだと思います。私の行政区は、防災組織は昨年度に作り上げました。それを実行に移すということになりますと、人選の面から見てもコミュニティなどとてもできる地域ではありません。各家庭は3軒先の顔が分からないという地域です。いろんなふれあい交流会とかお茶飲み会ということで、人集めを図っているんですが、人口で言えばおよそ900人のうち160人が県営住宅の自治会の住民となっているので、160だと600人、その中から会合に集まってくれるのは何人かという、ほぼ15人前後という状態で、その様な中で防災組織が2年ばかりで出来上がったようなもので、さらにこれを実行に移すということは非常に難しいことだなどとは考えていたところでした。笠松区長さんの話を聞いてうまくいっている地域もあるんだなと思いました。

それから、畑中社長さんからありました企業ですね、何人ぐらいの企業ですか。

畑中～ 今120人ぐらいです。

町民～ その様な企業がどれぐらいこの町にあるのか、畑中さんのところのような企業が数十社あれば、セントラル自動車がある、それについてくる子会社がある、その子会社が孫会社を求めていることになりまして、それがこの町の発展につながっていくのかなと思います。以上でございます。

足立～ ありがとうございます。

地域でいろんな状況があつて笠松さんのお話を伺ったときに美里町全体で、このようなことができるのかしらということ、ちょっと疑問に思っていたんですけども、小田島さんのところではいろいろとご苦労なさっているということをお伺いして、その中でも逆に笠原さんが、ノウハウを小田島さんのところに行って、情報交換などをしてもらってもいいのかなと思っております。是非聞き出して、県営住宅でもできるノウハウのようなものを生み出していただければと思います。

せっかくですので、もうお一方ぐらいお願いします。

町民～ 自立を目指すというタイトルに向けて、もう一つあってもいいんじゃないかなと思うことがあるんですけども。それは、行財政のことやいろいろとありますが、むしろ個人個人の問題として、健康で生きがい作りという立場があると思うんですが、生きがいという言葉について、どなたもまだ触れていなかったんじゃないかと思うんです。やはり自立を目指すまちづくりにとって一番大切なのは、20代、30代の方々を含めて、40、50、いろんな年代に関係なく生きがいというのは非常に大きな問題となってくるんじゃないかと思います。

別な言葉で言うと夢ということでもいいのではないかと思うんですけども。その辺についてプラスしていただいてもいいのではないかと思いますので、あえて付け加えさせていただきます。

足立～ ありがとうございます。本当にそうだなと思いますし、どなたか、その辺はいかがでしょうか。では勝又さん。

勝又～ そのとおりであると思います。地縁というのが薄れている。志縁というのがあると伺いました。志を同じくしている人たちが何かの活動をするということでもあると思いますし、やっぱり友達なんですよ。友達づくりというのがとっても大事で、その様な意味で私の店の余分なスペースを作ったんですが、そこで友達を作って、それじゃあなたのことを応援しようとか、

結構女の人は元気ですから、いろんなところでその様なサロン活動をやっている人が多いんですよね。それでかなり元気になってですね、ああだこうだいいながら女の人が活動しています。その様なこともいろんなところで発生してきたら面白いだろうなと思います。私もできるところからやって行きたいと思っております。

足立～ ありがとうございます。それではパネリストお一人お一人からお願いします。

畑中～ 商工人が元気にならないと町も明るくならないと思います。その様なことで、町の人たちに応援していただきたいと思っております。やって欲しいことやサービスを是非商工会にどんどん話していただければ、がんばって皆さんにお答えできる商店や工場になっていきたいと思えますし、そこでコミュニケーションが生まれ、そこで消費が行われる、税金につながるということもあるのではないかと思います。地域の店をもっと大事にしてほしいなと思います。

勝又～ 私もよそ者は卒業して、商店街の一人としてこの町で生きていけるようになっていきたいと思っております。

笠松～ 私の地域づくりについて順調に行っているということを申し上げたんですが、私区長会で区長の皆さんのお話を聞くときに、私のところにはマンションというのはいないんですが、マンションがある地区の方々は、そこの住民の方と接することが大変であるということをつたえ耳にしておりますので、勝又さんのまちづくり会議の中で、検討していただくというか、いい方策を教えてくださいたいと思います。

ご質問いただいた区長さん、そしてそのほかの区長さん方も区長会議では住民とのやり取りが大変なのだと聞いておりますので、それに対するいい方法をご検討いただいて、何かの機会にご発表いただいたら、今日来ていただいている区長さんも「ああそうか」ということになろうかと思います。

鈴木～ 今日はありがとうございました。このチラシをお配りさせていただきました。(コミュニティ関係の講座の資料をお示しいたきながら) 是非興味のある方は参加してみてください。

町長～ 今日はどうもありがとうございました。自立するまちづくり、魅力ある美里町とは何かと、それはみんなが住みたい町になるにはどうしたらいいかと考えることだなと思います。そのときには、美里に住むメリットが見えることが必要だと、あそこの町にはこれがある、という魅力をいっぱい引き出すことだろうと思います。美里の魅力を皆さんと一緒に作っていくようにがんばりますのでよろしくお願いします。ありがとうございました。

足立～ 今日は本当にパネリストの皆さんのお話も力強くてよかったと思えますし、会場からはお二方からしかお話をお伺いしなかったんですが、これから美里町をどうしたらいいかということで、すごく熱い思いに包まれているのではないかと考えております。私どもも美里町がこれからどんどん良くなるようにお手伝いしていきたいと思えますし、応援しております。今日は皆さんありがとうございました。

以上